

緑化だより

No.197 令和5年9月号



フジバカマ

- 季節の花(芝草(チカラシバ))
- 水生昆虫の話
(オオシマトビケラ)
- 小さな世界こけ(コツクシサワゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

芝草(しばくさ)(チカラシバ)

「立ちかはり 古き都と なりぬれば

道の芝草(しばくさ) 長く生(お)ひこけり」

田辺福麿(たなべのさきもり)万葉集 巻6-1048

これを訳しますと

(奈良の都が移ってしまい、あんなに繁栄していた昔と変わり、古い都になってしまい、道の雑草も生い茂り伸び放題です。)

天平12年(740年)以降、聖武天皇が30年余り続いた平城京を奈良から京都に移したため奈良は古都となり、宮人(みやびと)が行き来していた道もすっかり荒れ果て、雑草が茂り、荒廃ぶりが感じられている様子が詠われています。

ここで詠われている芝草とは現代の芝ではなく、チカラシバ(力芝)と思われます。

シバは草丈が短く、5cmを超えることはありませんが、「長く生ひこけり」と詠われているのは80cmぐらいになるチカラシバでしょう。

チカラシバ(力芝)はイネ科チカラシバ属の多年草で、北海道西南部から沖縄までに自生し、国外ではアジア大陸から中国大陸、オーストラリアに広く分布しています。日当たりのよい草地や路傍、土手、耕作地の周辺に普通に生えています。草丈は50~80cmで、花期は8~10月にピンを洗う紫色のブラシのような形の穂になります。葉は細長くてかたく、幅7~8mmでざらざらしています。種子は人の服のズボンや動物の毛について運ばれて繁殖します。株はひげ根をしっかりと張り、大株になっています。引き抜こうとして思いきり引っ張っても、根が強く少々では抜くことができません。ひきちぎるにも力が入ることから「力芝」の名前の由来です。



チカラシバ

ススキのような葉と夏以降に咲かせるブラシ状の穂は茶花として重宝されています。穂が毛虫に似ているので子供の遊び道具(おもちゃ)として昔から使用していました。

チカラシバによく似ている帰化植物で、穂に枝がある「エダウチチカラシバ」、穂が黄色で沖縄など熱帯の海岸にある「シマチカラシバ」なども生じています。欧米ではガーデニングとしてチカラシバの園芸品種が作出され、観賞用に屋外で栽培されて、日本にも出回っています。(上村)

水生昆虫の話

オオシマトビケラ

今年の夏、太田川水系で水生昆虫を調べていてよく見かけた可愛らしいオオシマトビケラさんをご紹介します。

トビケラ目は、幼虫→サナギ→成虫と完全変態で、幼虫はまるでイモムシのような姿をしています。トビケラ目シマトビケラ科オオシマトビケラ属のオオシマトビケラは、河川の中流から下流域にかけて、砂礫(されき)の河床に多く生息するトビケラの仲間で、幼虫は少きれいな水の指標生物(Ⅱ)に分類されています。

シマトビケラ科の幼虫の中でも大型の種で、他のシマトビケラ科の幼虫と比べ、全体に太くてずんぐりとした体形なので、なんだか親近感があります(笑)。

体長は約 20mm で、写真のように頭部と胸部の頭部背面後方背面は茶褐色、中胸、後胸は1対の隆起線に囲まれた大きなキチン板に覆われ、平腹部は緑色を帯びた黄褐色～淡褐色で房状のフワフワしたエラがあります。他は茶色から緑色で陸上のイモムシのようなやわらかさ。

オオシマトビケラの幼虫は雑食性で、川の中で砂礫の隙間や水底の岩の表面などにトンネル状になった巣を作り、その上流側にとても目の細かい編みを張り、かかったプランクトンなどを食べています。ちなみにサナギも石粒などを用いた固着の巣で過ごします。コガタシマトビケラやウルマーシマトビケラなどと、住む場所も姿もよく似ていますが、他のトビケラに比べて頭が大きくて平たい体型なので区別できます。

5～7月にかけて、水底の砂礫を固めてサナギを作り、やがて羽化します。成虫は、5月～9月にかけて平地を流れる河川周辺の草地や林で見ることができます。また、夜になると住宅等の灯火に集まってくるので、民家の玄関や窓の灯り、自動販売機などでよく見かけます。全長約 20mm。前翅は光沢のある淡褐色で、黒い縞のような模様があるとても美しいトビケラです。触角がとても長くて、なんと！全長の約 1.5 倍もあります。

近年、我が家に飛来してくるトビケラやカゲロウなどの数が激減しています。それが地球温暖化の影響なのか、豪雨災害の影響なのか、農薬なのかはわかりませんが、生態系ピラミッドの下部側に位置する小さな昆虫達の数が減っている事に対して、見えない危機感を感じずにはいられません。

蛾と勘違いされて嫌がる方も多いですが、トビケラは成虫も幼虫も人間にとって無害なので、殺虫剤などで駆除せずにそっと見守ってあげてほしいものです。

中国山地の山間部のある地域では、今でも毎年大量発生する場所があるそうなので、いつか観察しに行ってみたいものです。(西村)



オオシマトビケラの幼虫



オオシマトビケラの成虫

小さな世界 こけ

ゴツゲンサワゴケ

明るく湿った場所の岩や土の上に小さな塊を作ります。

園内では第2駐車場、第4駐車場や樹木見本園などのアスファルト舗装の割れ目などで見ることができます。

黄緑色の柔らかい感じの小型のコケで、茎は赤味を帯び長さ 1～2 cm、密についた 1 mm の長さの葉は、披針形で細く尖り、乾くと茎にくっつきます。雌雄異株で、9 月頃、雄株の先に赤い雄花盤をつけ、雌株は 4 月頃、胞子体をつけます。胞子のうの大きさは 3 mm の球形で、コケの大きさに比べ、大きく目立ちます。

本種はタマゴケ科に属し、球形の胞子のうはタマゴケに似ています。(山根)



ゴツゲンサワゴケ



ゴツゲンサワゴケの胞子体



ゴツゲンサワゴケの雄花盤

研修会のご案内

- 9月 1日(金) 『薬草健康講座』
 ～私と高知と牧野植物園～
 ※自由参加、無料
 10:00～12:00 学習室 集合
 講師：広島国際大学生涯学習自然園
 前園長・薬学博士
 神田 博史
- 9月 9日(土) 『野菊を育てよう』
 ～シラヤマギク、ノコンギクの銘品の栽培～
 キクについて学び、実践して持ち帰ります
 ※要予約(先着 20組)、材料費 1,500円
 10:00～12:00 学習室 集合
 講師：森林インストラクター
 長井 稔
- 9月 10日(日) 『秋の七草と自然探勝』
 秋の七草について学び、植物を観察します
 ※自由参加、無料、荒天中止
 10:00～12:00 学習室 集合
 講師：森林インストラクター
 野田 圭一
- 9月 16日(土) 『9月の自然探勝』
 散策路を歩きながら植物を観察します
 ※自由参加、無料、荒天中止
 10:00～12:00 学習展示館前 集合
 講師：森林植物研究家
 埴田 宏
- 9月 24日(日) 『秋のきのこ入門観察会』
 講師と一緒に散策路を歩き、きのこの解説を聞きます
 ※要予約(先着 15名、残りわずか)、無料、荒天中止
 10:00～12:00 学習展示館前 集合
 講師：きのこアドバイザー
 川上 嘉章

お知らせ・ご案内 ☆

第7回ひろしま遊学の森

四季の移ろい写真コンテスト

写真募集中 締切り;11月30日(木)

詳細はHP,チラシでご確認ください。



◎ 展示会

場所:レストハウス
(ボード展示)

はずき会「日本画作品展」

～ 9月 30日(土)

(ガラスケース展示)

つづらふじ手作りカゴ作品展

9月17日(日) ～10月22日(日)

場所:学習展示館
(ボード展示)

季節の花 写真展

～9月 30日(土)



はずき会「日本画作品展」より



過去の「つづらふじ手作りカゴ作品展」より